



令和 6 年度 加賀市長からのメッセージ 第 007 号 11 月 21 日配信

師走が近づき、朝晩の冷え込みが厳しくなってきました。

これから冬景色や冬の幸などの魅力が膨らむ時期でもあります、一方で厳しい寒さの中、能登での復興を待つ皆様や災害復旧に従事される方々がいることを忘れることなく、少しでも我々のできる活動を続けていきたいと考えています。

さて、先週から今週にかけて様々なイベントが市内で行われました。その中でも 3 日間にわたって開催されたロボレーブ世界大会は、悔し涙や勝利の笑顔の子どもたちの姿が印象に残る時間となりました。今回も海外からもたくさんの参加者が訪れる機会となり、競技としてだけではなく、国際交流の場としてもよい機会になったと思います。

また、11 月 18 日（月）に法政大学と加賀市が包括連携協定を締結しました。すでに法政大学の理系コンソーシアムに加賀市は加盟していますが、この度の協定締結で航空産業の分野での人材育成や技術面での協業、市内における理系人材の育成、そしてマーケティングおよびプロモーションなどの領域に関する分野でも加賀市の成長戦略をより加速させるものになります。締結式には市内高等学校の校長先生もご出席くださいました。法政大学は私の出身校というご縁もありますので、その応援や期待になんとしても応え本協定による成果を市民の皆様にお届けしたいと思っています。

明日から北前船寄港地フォーラム in 加賀が市内で開催されます。北前船は世界に誇る重要な日本遺産です。日本中から多くの来賓が来られ、全国の北前船に関する取り組みが一堂に会する貴重な機会でもあります。同時にこの大会においても、能登半島地震の復興に向けてたくさんの応援の声が届いておりますので、復興に向けてまたひとつの大きなエールになればと思う次第です。

(令和 6 年 11 月 21 日号)

加賀市長 宮元 陸